

横須賀市中小企業景況レポート

第5号（平成26年1月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行う、景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団（以下「財団」と表記）がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：186社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査169社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成25年7～9月の景況感（調査時点 平成25年9月1日）
今期・・・平成25年10～12月の景況感（調査時点 平成25年12月1日）
次期・・・平成26年1～3月の景況感（ ” ” ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

*DI値調査結果は裏面に記載

全業種の景況感は、前期の6Pから4Pとなり、2P悪化しました。

業種別では、不動産業が6Pとなり34P悪化、卸・小売業が△27Pとなり16P悪化してしまいました。

逆に建設業は23Pとなり16Pの改善、製造業は25Pとなり11Pの改善となりました。

今期大きく悪化した不動産業ですが、次期には回復して前期と同じく40Pとなると期待されています。

サービス業は前期から今期、今期から次期と大きな変化ではありませんが、悪化が続きそうです。

全業種の項目別で見ると、雇用人員は△22Pとなり、人材不足感が非常に大きくなっています。

収益や資金繰りもそれぞれ10P、18Pと悪化し、△4P、△15Pとなりました。

売上額については、3P改善とほぼ横ばいであり、次期についても大きな変化はないようです。

また昨年同期との売上額の比較については、「増加」と回答した企業の割合が減少したため、DI値は5.9Pの悪化で8.6Pとなりました。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

- | | | | |
|-------------------|---|--------------|---|
| ○良い：15P以上 | ↑ | ○やや良い：6P～14P | ↗ |
| ○変わらない（普通）：△5P～5P | → | | |
| ○やや悪い：△6P～△14 | ↘ | ○悪い：△15P以下 | ↓ |

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

(1) 製造業 25 <良い> ↑

景況感は前期より「良い」という声が大きく増え、DI 値は 11P 改善しました。

売上額や収益が改善している一方で、資金繰りは△6P となり、前回より 17P の大きな悪化となりました。

☆事業者の主な声☆

- ・既存取引先からの受注が旺盛。開発担当者が営業担当者と同行して掘り起こしを行っており、その成果が持続的に表れている。
- ・鉄道部品の受注が好調であり、年内は残業しないと追いつかない状況である。
- ・大手企業の業績回復により親会社への受注が増加し、それに伴い当社の受注も増加している。しかし、受注単価が安いと、利益確保が難しい。
- ・在庫管理、作業工程の見直しで効率化を図り、残業・休日出勤などを無くし経費削減に取り組んでいる。
- ・大企業を呼び込む施策より、出ていかないような施策をするべき。

(2) 建設業 23 <良い> ↑

景況感は前期より「悪い」が減少し「良い」が増加したため、DI 値は 16P の大幅な改善がみられました。

項目別では売上額が大幅に改善しましたが、収益や資金繰りは悪化してしまいました。

雇用人員は 47P の大幅な悪化で△40P となり、人手不足感を最も感じる業種となりました。

☆事業者の主な声☆

- ・消費税増税前の飛び込み注文が多く入っているが、人手不足を鑑みて断ることもある。
- ・消費税増税前の大型工事の受注があり大幅な増益が見込めるが、高額受注のため、資金繰りが課題となっている。
- ・民間の工事が好調だが、小口の案件が多いため、人員不足により全て受注できない。
- ・原材料価格が値上がりしたことから、利益率の高い受注の確保や経費の削減など、利益率を重視した経営を心掛けている。
- ・消費税増税による駆け込み需要は特にない。

(3) 卸・小売業 $\Delta 27$ <悪い>



景況感は前期の $\Delta 11$ から16P悪化し $\Delta 27$ Pとなりました。前回の18Pの悪化に引き続きの続落となっていました。

売上額は9P改善しましたが依然 $\Delta 6$ Pであり、他の項目については大幅な悪化となりました。

☆事業者の主な声☆

- ・商店街の人通り減少に歯止めがかからない。個人消費が落ち込んでいる。
- ・原材料の値上げや同業他社との競合により利幅が減少している。
- ・仕入れコストが上昇しているが、価格に転嫁できずに利益確保が難しい。
- ・毎年の最低賃金の上昇で人件費が上がる。早々にあげられない小規模経営の首を絞めている。
- ・量販店やネット通販との競合があり、厳しい状況である。
- ・商店街のセールが週末に重なったこともあり、贈答品の売れ行きが好調で売上げが増加した。
- ・消費増税を見越した顧客が増え、売上げが増加した。

(4) 不動産業 6 <やや良い>



景況感は前回40Pの改善という大幅改善の反動から、34Pの悪化となり、6Pになりました。

同様に前回大幅に改善した売上額や収益もそれぞれ $\Delta 47$ 、 $\Delta 26$ と大幅な悪化となっていました。

☆事業者の主な声☆

- ・富裕層向けの物件が好調に推移している。
- ・ここ1年で仕入れた物件はほぼ計画通り順調に販売されている。
- ・消費税増税を見据え、今期中の積極的な商品の仕入れを行っている。
- ・都心部では地価の値上がりが続いているが、横須賀の地価にも変化が起きる可能性が高い。
- ・優良物件の確保が難しく問い合わせも減少傾向にある。今後も優良物件の確保に努め、売上げ増加を目指したい。

(5) サービス業 2 <やや良い>



「良い」「悪い」の割合はいずれも増加し、結果として4Pの悪化となりました。

雇用人員は35Pの大幅な悪化となり $\Delta 28$ となりました。収益も17Pの悪化で $\Delta 13$ となりました。

他の項目は $\Delta 2$ のほぼ横ばいとなりました。

☆事業者の主な声☆

- ・高品質で高価格な商品を導入したところ、客単価が上がり売上げ増加に結び付いた。
- ・材料費の上昇と従業員時給上昇による利幅の圧縮が懸念される。さらに消費税増税により固定客離れも考えられるため、新規顧客の獲得に努めていきたい。
- ・材料価格と販売価格がともに上昇していて、売上げが増加しているが利幅は減少している。
- ・ワゴンタイプのタクシーを増加したことで売上げが増加した。
- ・他店舗等との競合の点で、値上げできる状況ではないので、大幅な設備投資は行わず、利益確保に努めたい。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成25年7～9月の景況感（調査時点 平成25年9月1日）
 今・・・今期 平成25年10～12月の景況感（調査時点 平成25年12月1日）
 次・・・次期 平成26年1～3月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	182	43	31	46	15	47
今期	186	44	30	51	15	46
次期	186	44	30	51	15	46

(単位：社)

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	27	30	27	33	45	36	23	33	30	26	18	22	47	33	47	21	24	17
	変わらず	52	44	49	48	35	41	61	57	60	37	37	39	46	40	46	64	54	59
	悪い(B)	21	26	24	19	20	23	16	10	10	37	45	39	7	27	7	15	22	24
	DI値(A)－(B)	6	4	3	14	25	13	7	23	20	△11	△27	△17	40	6	40	6	2	△7
	今－前、次－今	△2	△1		11	△12		16	△3		△16	10		△34	34		△4	△9	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	29	30	29	35	39	34	23	37	33	26	27	22	40	13	47	28	26	24
	変わらず	44	45	48	39	41	46	58	50	57	33	40	47	53	60	46	46	48	48
	悪化(B)	27	25	23	26	20	20	19	13	10	41	33	31	7	27	7	26	26	28
	DI値(A)－(B)	2	5	6	9	19	14	4	24	23	△15	△6	△9	33	△14	40	2	0	△4
	今－前、次－今	3	1		10	△5		20	△1		9	△3		△47	54		△2	△4	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	26	20	21	33	36	32	26	17	23	24	14	12	33	27	33	21	13	15
	変わらず	54	56	55	44	46	48	64	76	70	43	49	47	60	46	54	62	61	61
	減少(B)	20	24	24	23	18	20	10	7	7	33	37	41	7	27	13	17	26	24
	DI値(A)－(B)	6	△4	△3	10	18	12	16	10	16	△9	△23	△29	26	0	20	4	△13	△9
	今－前、次－今	△10	1		8	△6		△6	6		△14	△6		△26	20		△17	4	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	13	3	4	12	14	14	23	0	3	11	0	2	7	0	0	13	0	0
	適正	78	72	73	74	68	72	61	60	57	85	75	76	86	93	93	81	72	72
	少ない(B)	9	25	23	14	18	14	16	40	40	4	25	22	7	7	7	6	28	28
	DI値(A)－(B)	4	△22	△19	△2	△4	0	7	△40	△37	7	△25	△20	0	△7	△7	7	△28	△28
	今－前、次－今	△26	3		△2	4		△47	3		△32	5		△7	0		△35	0	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	18	9	10	23	14	11	23	10	7	20	4	2	13	20	33	9	7	11
	さほど苦しくない	67	67	70	65	66	73	64	73	66	60	53	65	74	67	67	76	78	76
	苦しい(B)	15	24	20	12	20	16	13	17	27	20	43	33	13	13	0	15	15	13
	DI値(A)－(B)	3	△15	△10	11	△6	△5	10	△7	△20	0	△39	△31	0	7	33	△6	△8	△2
	今－前、次－今	△18	5		△17	1		△17	△13		△39	8		7	26		△2	6	

<参考> 昨年同期と現在の売上比較(回答 152社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	59社	38.8%	44.9%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	47社	30.9%	24.7%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	46社	30.3%	30.4%
DI値(A)－(B)		8.6P	14.5P

